

「調べる」だけではも  
つたない。約175万  
冊もの図書や資料、雑誌  
をそろえる図書館は新し  
い興味と出合い、考えを  
深め、息抜きもできる場  
所。目の前に広がる宝の  
山をいかに活用し、味方  
につけるか、1年次生は  
図書館利用案内基礎コー  
スでその基本の「ぎ」を  
学ぶ。読書案内の冊子、読  
書のスルメ」を配布する  
など、図書館からの発信  
に努めてきた大庭健館長  
(文学部教授・倫理学概  
論)は今年で就任10年  
目。図書館の「いま」と  
「これから」について聞  
いた。

### 特集 図書館を利用しよう



▲ 学生証をかざして入館する1年次生たち

## 宝の山は目の前に

#### 図書館ツアー

学生の図書館離れが進む中、年度初めに図書館の利用ガイドを取り入れる基礎ゼミは年々増え、今年度は140ゼミが参加する。この日は、文学部の福島義和教授と島津京准教授の基礎ゼミナールに所属する学生約60人が3班に分かれて専修大学図書館本館の探索に入った。

「移動はスムーズに。私語はできるだけ

OPACコーナー  
OPACコーナーで

### 大庭健図書館長に聞く



ほとんど足を踏み入れないまま卒業していく学生との二極化が進んでいいます。そこで、各大学図書館は「ラーニング・コモンズ」という友達としゃべりながら勉強できる空間を重視しています。去年4月に神田分館の地下1階に作ったグループ学習「エリア」がそれで、学生の

## 読書で「世界」を疑似体験

図書館で気兼ねなく過ごすには空間的なゆとりが大事。どこかに居場所を見つけれられるようスペースを広くとり、行き来しやすくなるような空間づくりを本学は目指してきまし

は、各自が検索の練習用に割り振られたキーワードを検索。「金融ビジネスモデルの変遷」や「ロールズのカートの構成主義」などと打ち込み、画面に現れる所蔵情報や請求記号の見方の説明を受ける。職員が「インターネットでは気軽に情報を入手できませんが、信頼性のない情報も多くあります。正確な情報の検索方法を身につけてください」と念を押すと、学生たちの表情は心なしか引きしま

#### 電動式集密書架



▲ 電動式集密書架で操作を見学

では映画のDVDを借りたりできるAVプラザを見学。大きく窓が開け、緑が見渡せる空間に目を奪われた後、階下の書庫へ移動し、雑誌のバックナ



OPACコーナーでキーワード検索

専修大学には図書館が生田、神田の両キャンパスに計4館あり、蔵書数は合わせて約175万冊。1998年にオープンした本館は人文・社会科学を中心に幅広い分野の約120万冊を所蔵。生田分館は2001年にリニューアルし、ベストセラーや実用書、コミックを含むサブカルチャー関連本を収める。神田3号館の1階中庭に入り口がある神田分館は、46万冊を所蔵。昨年1階と地下1階の一部を改装しアートギャラリー風な雰囲気も。法科大学院分館は法令・判例検索のデータベースが充実する。重要文化財指定の『古今和歌集』(蜂須賀家旧蔵本)や世界最古の複式簿記書「スママ」(算術、幾何、比及び比

### 「生田」「神田」に計4館

### 蔵書は約175万冊

例総覧(1494年)初版をはじめ、貴重な資料を所蔵する。特別書庫で保管されマイクログラムでの閲覧が中心だが、旧満州を多角的にとらえた関連資料「高橋勇文庫」や、1970～80年代の「雑誌初号コレクション」など実物を手に取れるものもある。閉館時間は生田キャンパスの2館が21時(土曜は19時)、神田キャンパスの2館が22時。両キャンパスで図書の取り寄せができる。本館では、オンラインデータベースの使い方を学ぶ「図書館情報検索講習会」(6月17～21日)の参加者を募集中。歴史上の人物の名言と著書を紹介する春の企画展「人物でめぐる図書館」を6月28日まで開催している。



▲ 図書館職員④の説明を聞く

館内をひと回りのとこで、先ほどOPACで検索した請求記号をもとに該当する図書を書庫から持ってくるのは、1冊でも多くの本と出合っは「いから」という説明に上気した頬でうなずいていた。職員に手渡して終了となった。参加した学生は、「貴重な資料を自分の手で直接探せるのは特権(哲学科の大木魁蔵さん)、「学部ごと、先生

ごにお薦めの図書があつて心強い(同、品田直人さん)と図書館を身近に感じた様子。オープンキャンパスで五つの大学の図書館を見て回ったという松本奈々さん(同)のように「専修大学図書館はきれいですぎて本のおいがないのちやよと物足りない」という図書館通や、既に講義の空き時間に『羊たちの沈黙』のDVDを見たという学生もいて、図書館との付き合い方はさまざま。締めくくりとして、島津准教授からは「みんなで議論したいと思う1冊を選び、論点を整理して1000字程度にまとめること」と課題が出された。